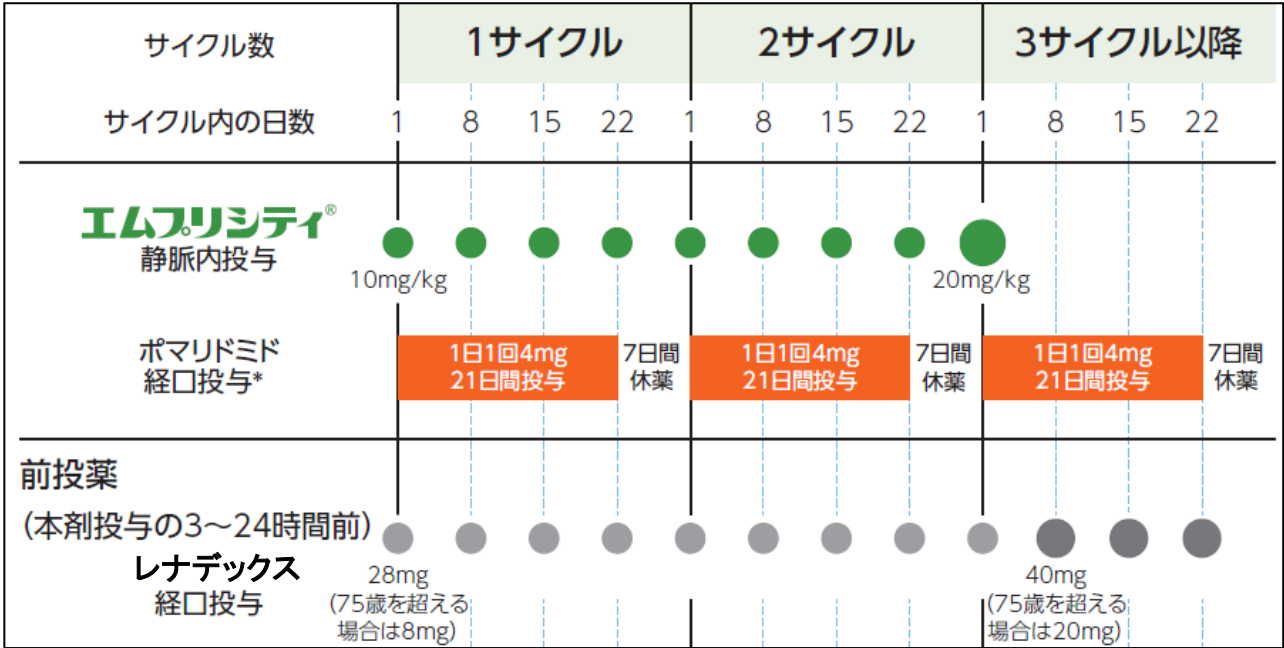


レジメンcode:	C90-22	備考
適応がん種:	多発性骨髄腫	
レジメン名:	EPd療法	
間隔:	4週間	

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	エムプリシティ	[*1]10	mg/kg	点滴[*2]	[*3]d1、8、15、22
	ポマリスト	4	mg	内服(朝食後)	d1～21
	レナデックス	[*4]28	mg	内服 (エムプリシティの3～24時間前)	[*5]d1、8、15、22

[*1][*3][*4][*5]エムプリシティ、レナデックスは、以下の図に沿ってスケジュール・用量を変更する

[*2]エムプリシティは、表に従って点滴速度を調整する



[*6]infusion reaction軽減のためにエムプリシティ投与3～24時間前にレナデックス、45～90分前にカロナールを内服する

連日[*7]

1) バイアスピリン	100mg	1 錠/day
アシクロビル	200mg	1 錠/day
	内服	朝食後

[*7]血栓塞栓症、带状疱疹の発症予防のため上記薬剤の内服が推奨されている。

【1、2サイクル(1～8週目)】

1、2サイクル		1サイクル28日間							
		day1	～	day8	～	day15	～	day22	～
エムプリシティ(点滴)		↓		↓		↓		↓	
レナデックス(経口)	76歳未満	28mg		28mg		28mg		28mg	
	76歳以上	8mg		8mg		8mg		8mg	
ポマリスト(経口) day1～21		→							

【内服】

day1～21（day22～28は休薬）

1) ポマリスト	4mg	1 Cap/day
	内服	朝食後

day1、8、15、22[*6]

1) レナデックス	4mg	[*4]7錠/day	[*4]76歳以上では、2錠/day
	内服		エムプリシティ投与3～24時間前
2) カロナール	500mg	2錠/day	
	内服		エムプリシティ投与45～90分前

【点滴注射】day1、8、15、22

1) デキサート	6.6mg	1 V	
ファモチジン	20mg	1 A	
ポララミン	5mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	主管①	点滴	15 分 カロナール内服
2) 生食	50ml	1 本	
	主管②	点滴	45 分
3) エムプリシティ		10 mg/kg	[*8]50kg未満 :150ml 50kg～90kg:250ml 90kg超 :350ml
注射用水		100 ml	
生食		[*8] ml	・300mg/13ml、400mg/17mlのAQで溶解25mg/mlの濃度となる ・インラインフィルター必須
	主管③	点滴	[*2]
4) 生食	50ml	1 本	
			フラッシュ

〈所要時間 ー〉


[*2]

10mg/kg投与時の投与速度

投与時期		投与速度（mL/時）		
		投与開始 0～30分	投与開始 30～60分	投与開始 60分以降
第1サイクル	初回投与	30	60	120
	2回目投与	180	240	
	3及び4回目投与	300		
第2サイクル以降		300		

*忍容性が良好な場合は、患者の状態を観察しながら投与速度を段階的に上げることができるが
投与速度は300mL/時を超えないこと

【3サイクル以降(9週目～)】

3サイクル以降		1サイクル28日間							
		day1	～	day8	～	day15	～	day22	～
エムプリシティ(点滴)		↓		△		△		△	
レナデックス(経口)	76歳未満	28mg		40mg		40mg		40mg	
	76歳以上	8mg		20mg		20mg		20mg	
ポマリスト(経口) day1～21									

【内服】

day1～21 (day22～28は休薬)

- | | | |
|----------|-----|-----------|
| 1) ポマリスト | 4mg | 1 Cap/day |
| | 内服 | 朝食後 |

day1[*6]

- | | | | |
|-----------|-------|------------------|---------------------|
| 1) レナデックス | 4mg | [*4] 7 錠/day | [*4] 76歳以上では、2錠/day |
| | 内服 | エムプリシティ投与3～24時間前 | |
| 2) カロナール | 500mg | 2 錠/day | |
| | 内服 | エムプリシティ投与45～90分前 | |

day8、15、22[*5]

- | | | | |
|-----------|-----|---------------|---------------------|
| 1) レナデックス | 4mg | [*4] 10 錠/day | [*4] 76歳以上では、5錠/day |
| | 内服 | | |

【点滴注射】day1

- | | | | |
|------------|-------|----------|---|
| 1) デキサート | 6.6mg | 1 V | |
| ファモチジン | 20mg | 1 A | |
| ポラミン | 5mg | 1 A | |
| 生食 | 50ml | 1 本 | |
| | 主管① | 点滴 | 15 分 カロナール内服 |
| 2) 生食 | 50ml | 1 本 | |
| | 主管② | 点滴 | 45 分 |
| 3) エムプリシティ | | 20 mg/kg | [*8] 50kg未満 : 150ml |
| | | | 50kg～90kg : 250ml |
| 注射用水 | | 100 ml | 90kg超 : 350ml |
| 生食 | | [*8] ml | ・300mg/13ml、400mg/17mlのAQで溶解25mg/mlの濃度となる |
| | 主管③ | 点滴 | [*2] ・インラインフィルター必須 |
| 4) 生食 | 50ml | 1 本 | |
| | | | フラッシュ |

〈所要時間 ー〉

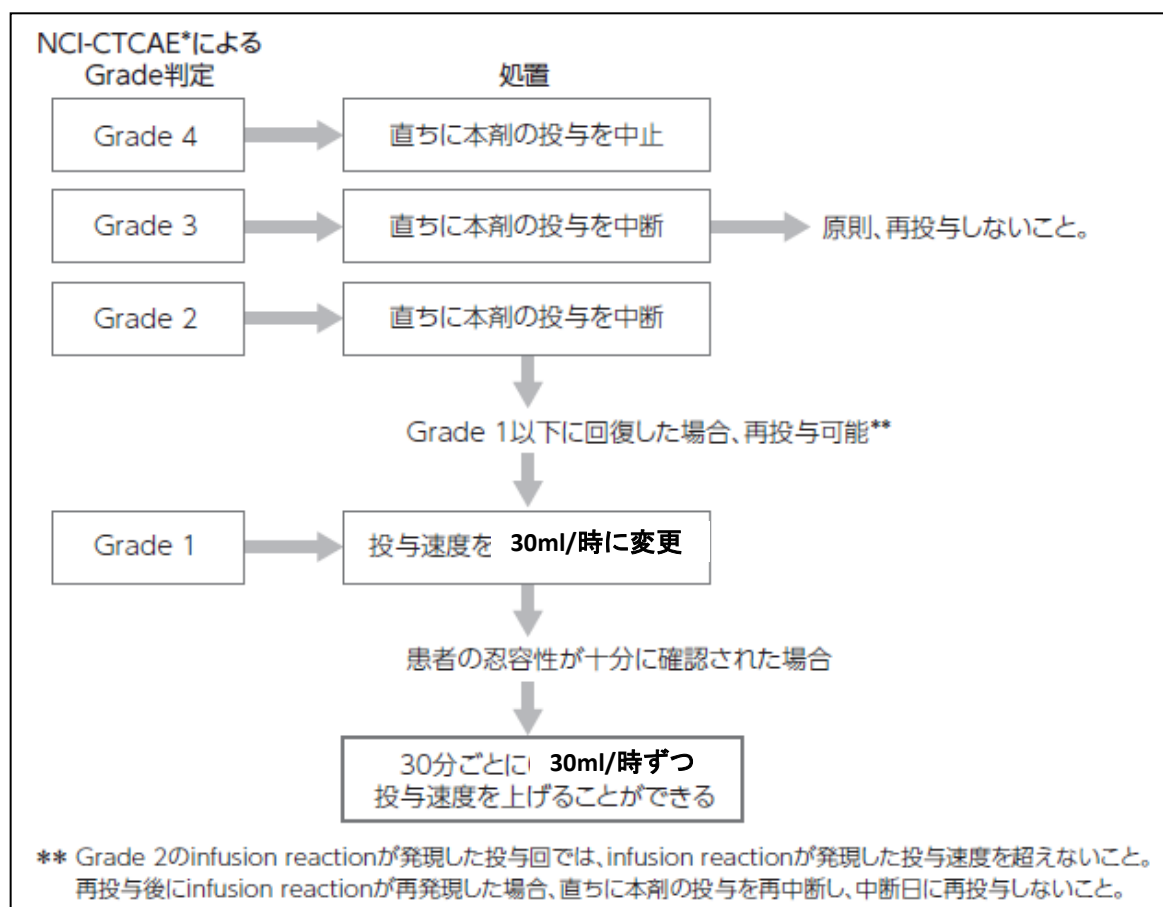
[*2]

20mg/kg投与時の投与速度（ボマリスト及びレナデックス併用時、第3サイクル以降）

投与時期	投与速度（mL/時）	
	投与開始 0～30分	投与開始 30分以降
1回目投与	180	240
2回目投与以降	300	

*忍容性が良好な場合は、患者の状態を観察しながら投与速度を段階的に上げることができるが
投与速度は300mL/時を超えないこと

【エムプリシティ投与に伴ったinfusion reaction発現時のエムプリシティ投与に関する対処法】



【infusion reaction発現時のデキサメタゾンの用量調節（CA204125試験）】

Infusion reactionの重症度	デキサメタゾンの用量*	
	75歳以下の患者	75歳を超える患者
Infusion reactionなしもしくは Grade 1の infusion reaction**	デキサメタゾン錠28mgを 本剤投与前3～24時間に経口投与 及び デキサメタゾン8mgを 本剤投与の45分以上前に静脈内投与	デキサメタゾン錠8mgを 本剤投与前3～24時間に経口投与 及び デキサメタゾン8mgを 本剤投与の45分以上前に静脈内投与
Grade 2の infusion reaction***	デキサメタゾン錠28mgを 本剤投与前3～24時間に経口投与 及び デキサメタゾン10mgを 本剤投与の45分以上前に静脈内投与	デキサメタゾン錠8mgを 本剤投与前3～24時間に経口投与 及び デキサメタゾン10mgを 本剤投与の45分以上前に静脈内投与
Grade 3又は 再発性のGrade 2の infusion reaction	デキサメタゾン錠8mgを 本剤投与前12～24時間及び3時間以上前に経口投与 及び デキサメタゾン18mgを 本剤投与の45分以上前に静脈内投与	デキサメタゾン錠2mgを 本剤投与前12～24時間及び3時間以上前に経口投与 及び デキサメタゾン12mgを 本剤投与の45分以上前に静脈内投与

※治験担当(分担)医師の判断で、デキサメタゾンの経口投与を分割(本剤投与前12～24時間前及び3時間前まで)することも可。

※※Grade 1のinfusion reactionの発現歴のある患者に対して、Grade 2のinfusion reactionの発現歴がある場合と同様の前投薬を実施しても可。

※※※Grade 2のinfusion reactionの発現歴のある患者に対して、Grade 3のinfusion reactionの発現歴がある場合と同様の前投薬を実施しても可。

【文献】

国際共同第2相試験【CA204125試験（ELOQUENT-3試験） N Engl J Med.2018;379(19):1811-1822(PMID:30403938)】

【適応】

(臨床試験)

レナリドミド及びプロテアソーム阻害薬を含む2レジメン以上の前治療歴を有する再発又は難治性の多発性骨髄腫

- ・エムプリシティ又は併用薬剤のいずれかの薬剤の投与を延期、中断、あるいは中止した場合には、その他の薬剤はスケジュールどおり投与を継続することができる。
- ・副作用等の理由によりデキサメタゾンの減量が必要となった場合、レナデックスを優先して減量する。
レナデックスの投与量を0mgまで減量した上で、さらに減量が必要な場合は、デキサート注を減量又は中止を検討する。

(エムプリシティ)

- ・2サイクル(1～8週目)は1週間間隔、3サイクル以降(9週目～)は4週間間隔になる。
- ・投与速度は、投与回数に応じて段階的に上げることができる。
- ・希釈液量は、体重に応じて変更する。
- ・infusion reactionを軽減させるために、エムプリシティ投与3～24時間前にレナデックス錠を内服し、45分前までにデキサート注、ファモチジン注、ポララミン注、カロナール錠を投与する。ただし、3～24時間前に服用するデカドロン錠は、76歳以上では投与量を減量する。
- ・希釈後、冷所で24時間以内または室温で8時間以内に使用する。
- ・インラインフィルターを使用する


(ボマリスト)

- ・血栓塞栓症予防のためのバイアスピリン100mg、帯状疱疹予防のためのアシクロビル200mg内服が推奨されている。
- ・レブメイトの登録が必要。

次ページあり

◎注意事項

ポマリストは、ヒトで催奇形性を示すサリドマイドによく似た薬剤であり、胎児への暴露予防を目的にその流通および使用が適正であるかを管理・評価する「レブラミド・ポマリスト適正管理手順(RevMate:レブメイト)」が定められている。RevMateは、医療関係者、患者さんとそのご家族等、すべての方に理解し遵守していただくことが必要である。

1、2サイクル		1サイクル28日間							
		day1	～	day8	～	day15	～	day22	～
エムプリシティ(点滴)		↓		↓		↓		↓	
レナデックス(経口)	76歳未満	28mg		28mg		28mg		28mg	
	76歳以上	8mg		8mg		8mg		8mg	
ポマリスト(経口) day1～21									

3サイクル以降		1サイクル28日間							
		day1	～	day8	～	day15	～	day22	～
エムプリシティ(点滴)		↓							
レナデックス(経口)	76歳未満	28mg		40mg		40mg		40mg	
	76歳以上	8mg		20mg		20mg		20mg	
ポマリスト(経口) day1～21		